



清川町観光案内所にて思うこと



清川町宇田枝
ひろ子
後藤 宥子

清川は、今熱い。神楽会館建設実現に向かって、みんな心がひとつになっている。

また、農業法人の設立も行われ、日本農業の再生をめざしている。そして、丹誠込めてつくった野菜を道の駅に出荷している農家の人も熱い心で取り組んでいる。

第一次産業だけでなく、第三次産業としての素材も清川にはある。

清川駅には、観光案内所が設置されている。

県内外から数多くのお客様を迎え、清川はもとより市内全域、竹田市、九重町別府市など広域的な案内と観光パンフの提供に努め、リピート率の向上に寄与したものと自負している。



▲ 夢とロマンが漂う宇田姫社

また、清川の素人劇団「清劇うたひめ」を縁に知り合った友人と「祖母傾ゆかりネットワーク」を立ち上げ、「うたひめロードマップ」の作成も手がけてきた。

清川の観光案内所は、地域の観光の拠点として大きな役割を担ってきた。

しかし、財政上の都合で土曜日と日曜日しか、開所できず、平日に来られるお客様に不便をおかけし、案内所としての機能を果たすことができないのが非常に残念である。



山村に生きる



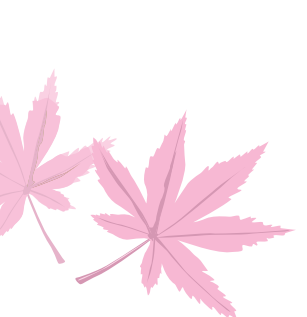
緒方町平石
よし義
まさ正
さわ澤
ふる古

風よし、山よし、水もよし。

なにより空気が美味しい。そんな山村に帰ってきて、もう30年が過ぎた。

この30年の間で、山村・農業・林業を取り巻く情勢は大きく変わった。大変厳しいものである。しかし、山村が好きである。

こんな山村を少しでも守ろうと、農林作業の受託組織を軸として、荒廃田には、飼料作目を作付ける。昨年3月に「農事組合法人オペライスみらい」を、志を同じくする5人で設立した。



作業受託については、計画の約170%、飼料作目については、3町歩の田んぼなどに植え、畜産農家の牛6頭が放牧されて調子よく進んでいる。

当初、集落内には、「5人が儲けるために作る」、「自分たちだけがいい思いをするのだ」と考える人たちもいた。

今の農業情勢、儲けるはずがない。集落の現状をしっかりと見るべき。

1人の力より、5人の力。そして、山村の寂れていく姿に少しでもブレーキをかけた。少しでも守りたい。そんな気持ちで進んでいる。なかなか、楽しいものだ。

今後、豊後大野市内に農林業、山村を守ろうと考える方が多く増えることを期待している。